

## 令和5年度 文化財普及事業 「土器づくり」講座

12月2日、3日、9日に恩納村博物館で文化財普及事業「土器づくり」講座(全3回)を実施しました。恩納村博物館の近くには約2500年前頃の遺跡「仲泊遺跡」が所在しています。当時の人々の生活に思いをはせながら、土器を作り上げていきました。

土器づくりの講師は、比嘉賀盛先生。比嘉先生は沖縄国際大学を卒業し、沖縄県内で出土する土器の観察を行い、土器の成形方法や焼き方、使用方法などあらゆる角度から研究してきた方です。そんな土器づくり第一人者の先生指導の下、作り上げていきました。

講座初日は、土作りを行いました。土器用の土は粘土と砂と水を混ぜて作り合わせていきます。この時、水が足りないと硬い土になり、逆に水が多いと泥のようになり土器を成形することが難しくなります。参加者は先生に確認しながら、一生懸命力いっぱいこねていました。

講座2日目は成形の日です。前日に作った土で先生のお手本の下、土器の成形を行いました。先生には土器の他に、土笛も作っていただきました。笛に息を吹きかけると「ヒューヒュー」と音が鳴りました。参加者の皆さんも音色に耳を傾ける場面もありました。

参加者はオリジナルの器やキャラクター、人形を作るなど皆さん様々でした。また、先生への質問で「当時の人も同じような土を使っていたのですか?」「土器の作り方は同じ?」など、当時の人々の生活に思いをはせながら土器の成形を行っていました。

講座3日目いよいよ、野焼きの日です。最初に薪を集めて焚火をします。むらなく焼くため、あらかじめ焚火をすることで、地面を熱します。焚火が終わると、炭をまんべんなく地面に広げ、その上に手早く土器を並べていきます。並べ終わったら、周囲に土器を焼く燃料となる木材を置いていきます。すると、置いた木材が地面に広げた炭の影響で燃え上がっていきます。あとは、火が燃え尽きるまで待つだけです。

今回の野焼きでは、残念ながら割れてしまったものもありましたがきれいに焼き上がっているものも多くあり、参加者からは「割れてしまったけど体験できて良かった」「うまく焼けた!!」などの声がありました。

令和6年度も土器づくり講座を実施したいと考えています。興味がある方はぜひ、恩納村博物館にお問い合わせください。皆さんも先史の人々が使っていた道具を実際に作ってみてその当時に思いをはせてみましょう!!



お問い合わせ：恩納村博物館 ☎982-5112